

## ウミガメ漂着の記録 (2002年)

\*北水 慶一

### 1. はじめに

2002年8月、大磯町西小磯の海岸でウミガメの産卵が確認された。本町で産卵が確認されるのは、1990年6月13日(当館記録)以来、12年ぶりのことである。近年ではとても珍しい事例であるため各誌面等で取り上げられ紹介されたが、死体漂着についても話題の多い年となった。平成13年度当館年報に1994年から2001年までの本町における漂着の記録を紹介したが、引き続き2002年の状況を報告する。

### 2. 記録

本記録は、当館で記録、撮影したものである。ウミガメの同定は背甲の形状並びに背甲鱗板の配列状態で確認している。

#### (1) 2002年6月11日確認のタイマイ

飯田福信氏(大磯町在住)、伊藤貞夫氏(平塚市在住)から当館へ連絡をいただく。大磯町大磯の大磯港東側に漂着。背甲は剥離されていたため、全長及び腹甲を計測し、記録撮影をおこなった。体長53cm、腹甲長40cm、腹甲幅31cm。翌年1月22日にエバーラスティング・ネイチャー 菅沼弘行氏・田中真一氏・石井雅之氏に写真を確認していただき、頭部の形状から本種がタイマイであることが判明した。

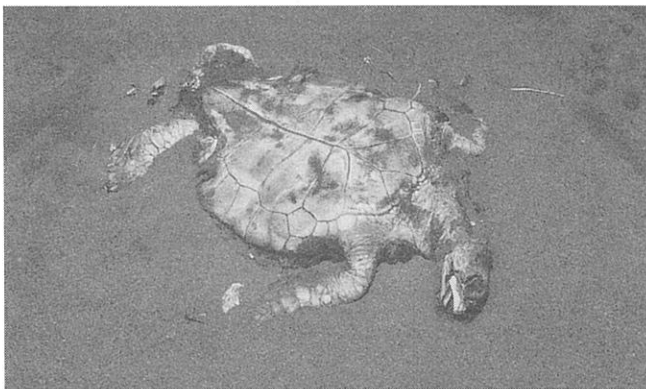


図1. 2002年6月11日に確認したタイマイ

#### (2) 2002年7月13日確認のアカウミガメ

伊藤貞夫氏から当館へ連絡をいただく。大磯町西小磯の海岸に漂着。同日、直甲長、直甲幅を計測し、記録撮影をおこなった。直甲長は70cm、直甲幅は51cmであった。



図2. 2002年7月13日に確認したアカウミガメ

#### (3) 2002年9月1日確認のアカウミガメ

山口光一氏(大磯町在住)、石井実氏(大磯町在住)によって当館にアカウミガメの子ガメの死体が持ち込まれた。拾得場所は大磯町西小磯の海岸。直甲長は5cm、直甲幅は4.7cmであった。

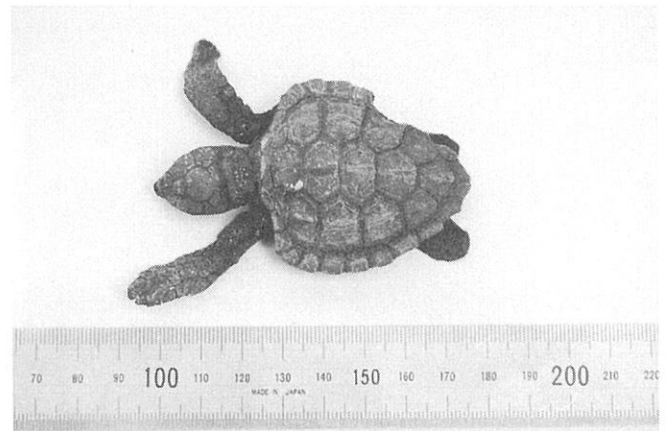


図3. 2002年9月1日拾得のアカウミガメ

#### (4) 2002年9月3日に確認したオサガメ

大磯町環境防災課より連絡をいただいた。大磯町在住の内田氏からの通報で大磯町西小磯の海岸にウミガメ漂着しているというものであった。同日、直甲長及び直甲幅を計測し、記録撮影をおこなった。直甲長は101cm、直甲幅は56cmであった。翌日、かながわ海岸美化財団の協力により骨格を採集するため、漂着場所付近に埋蔵したが、翌年2月18日、回収を試みるも発見できなかった。オサガメは水産資源保護法の保護動物であり、捕獲の禁止の他、死体の処分についても農林水産大臣への報告が義務付けられている。本件ではかながわ海岸美化財団によって報告が行われた。

(\*当館学芸員)

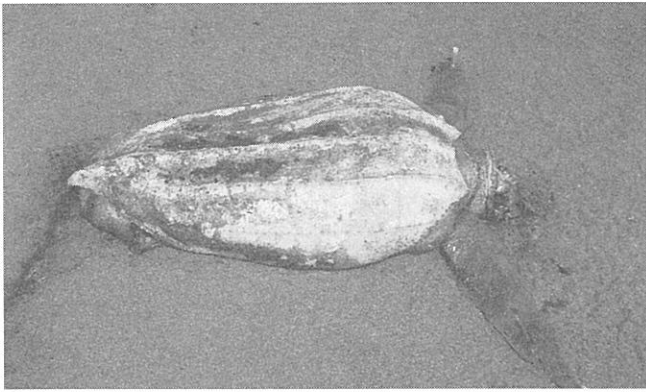


図4. 2002年9月3日に確認したオサガメ

### 3. まとめ

2002年はアカウミガメ2個体、タイマイ1個体、オサガメ1個体の計4個体を確認した。相模湾沿岸でのタイマイ、オサガメの確認記録は極めて希少である。丸山、中村(2000)の記録によると1989年から1998年の10年間に神奈川県沿岸(相模湾と東京湾の一部)で確認された個体数は、タイマイが6個体、オサガメが1個体であり、アカウミガメの241個体と比較しても極めて少ないことが分かる。このことは、丸山、中村(2000)が考察しているが、タイマイは日本周辺海域を回遊するようであるが、恒常的な生息域は南西諸島であること(亀崎,1994)、オサガメは外洋性の種と考えられており(亀崎,1994)、近海に寄りづらいことなどが起因しているものと思われる。また、成熟段階については、産卵可能となる甲長はタイマイが60cmから80cm、オサガメが120cm以上であると考えられている(亀崎,1994)。漂着したタイマイは背甲が剥離されてしまっていたので、直接、比較はできないものの体長が53cmということから明らかに甲長は60cmより小さく、オサガメについて

も直甲長が101cmであり、共に未成熟の個体であったことが分かる。タイマイの背甲剥離の一因は、タイマイの背甲は鼈甲細工に活用されることから剥ぎ取られたのではないかと考える。

また、9月1日に当館に持ち込まれたアカウミガメの子ガメについては、当初、付近の浜で孵化し、海へたどり着くまでに息絶えたものと考えていた。しかしながら、甲長を計測してみると5cmあり、孵化直後の甲長が4cm程度であることから、孵化後、しばらく時間がたっていることが分かり、本町もしくは近隣の市町で孵化したものが何らかの理由で息絶え、漂着したと考えた方が妥当であるように思う。

過去に例のないような、ウミガメに関する情報の多い1年であったが、多くの情報が集まることで、大磯周辺海域のウミガメ類の生息環境が解明されてくるのではないかと考える。

最後に情報をいただき方々に、厚く御礼申し上げます。

### 引用・参考文献

- 亀崎直樹(1994):タイマイ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(I), IV. 両生類・爬虫類. 479-491.
- 亀崎直樹(1994):オサガメ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎調査(I), IV. 両生類・爬虫類. 519-530.
- 北水慶一(2003):ウミガメに関する活動の記録. 年報-平成13年度-, 26-29. 大磯町郷土資料館.
- 丸山一子・中村一恵(2000):神奈川県におけるアオウミガメ、タイマイ、オサガメの記録. 神奈川県自然誌資料, (21), 17-23. 神奈川県立生命の星・地球博物館.



図5 2002年大磯町におけるウミガメ漂着の確認地点(大磯町発行10,000分の1地形図「大磯全図」を縮小して使用)

1. 6月11日漂着のタイマイ 2. 7月13日漂着のアカウミガメ 3. 9月1日漂着のアカウミガメ 4. 9月3日漂着のオサガメ